

## 2022年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果

### 農産物等輸出拡大施設整備事業

#### <評価結果>

「事業内容の一部改善」

#### ◇ 評価結果

現状通り	1名
事業内容の一部改善	5名
事業全体の抜本的な改善	0名
廃止	0名

#### <取りまとめコメント>

#### ○事業の課題や問題点

・レビューにおける一連のプロセスを通じて、ロジックモデル等も改善された。特に、政策対象において実現すべき望ましい当初の変化となる短期アウトカムを刻んで明示し、事業が達成を目指す政策目的に向けた経路がより明確に示されるようになった。

・事業の位置付けも分かりやすく、またロジックモデルも精緻で非常に論理的である。短期、中期アウトカムのモニタリングに注力して、うまく結果が出る方向に持って行っていただきたい。

・事業支援によってどれだけ利益や輸出額増に反映されたのかもっと「見える化」が必要。

・全体として、2兆円に向けて、どのくらい金額を積み上げられるのかが分からない。

・事業レビューシートでは、アウトカムとして、5年以内に目標達成した事業実施主体の割合としているが、単純平均をしていることは、実態把握にそぐわない。また、事業開始した年度によって達成率は異なるものであるはずであるところ、達成事業実施主体数/全事業実施主体数では、本事業による成果や進捗を管理するものとしてそぐわない。

・個別事情も考慮する必要があるため止むを得ない事情はあるが、目標値の立て方について、全体として、統一できる事情は統一すべきである。事業成果を測りやすくなるとともに、個々の事例においても、正しい目標値の設定は、意欲や予測しえない事情の正確な把握につながると考える。

・全品目、多品目について、輸出拡大を目指すのではなく、複数年の実績を踏まえ、厳選することも重要であると考え。

## ○事業の改善の手法や見直しの方向性

- ・事業による輸出増加額や利益向上の数値データの公表が必要。
- ・各事業の目標数値を積み上げたときに、どのくらいの金額まで輸出額を上げられるのかを明確に把握できるようにすべき。
- ・アウトカムにつき、各事業実施主体ごとに自ら立てた各年度の目標に対して、5年間、その年度までに累計で達成されている事業者数がどのくらいあるか等、成果を把握できる目標を設定すべき。
- ・個別事業の目標年度の先までモニタリングし、個別事業の積上げを評価していく必要がある。目標年度における計画の達成が成果になっているが、目標年度以降についても事業として評価する必要がある(事業年度以降の方がより重要と考える。計画のモニタリングを実施しているという説明があったが、モニタリングの結果がわからない)。
- ・事業計画を立ててから、審査にかけ、実際に採択されて実施されるまでの期間をできるだけ早くし、ビジネスチャンス逃さないようにさせ、また、実施後の報告については、無駄な手続などは削減し、IoTを積極的に利用し、迅速な事業実施が可能になるようにすべき。
- ・成功事例や失敗事例含め、当該事業から各農家を得た知見を他の農家においても活かすことができる仕組みを構築していく必要がある。